

高校2・3年生始業式 式辞

多様性を理解し、国際的視野をもつ基盤を育んでほしい

開成中学校・高等学校 校長 **野水 勉**

2020年4月7日

この4月1日に、柳沢幸雄先生から校長を引き継ぎました。1967年に開成に入学し、1973年に卒業しましたので、ちょうど50年前に開成に在籍していました。柳沢先生とは東京大学の応用化学分野の研究室へ出入りした際に、開成の先輩後輩同士として知り合い、その15年後、名古屋大学からアメリカ・ハーバード大学に研究留学した際に、柳沢先生が同大学の公衆衛生学部 (School of Public Health) の准教授として在籍されていたため、現地での1年半、公私にわたりお世話になりました。このたび、思いがけなく、柳沢先生から校長の後任を推薦されたことを大変光栄に思っております。

今年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、対面授業の開始は5月の連休明けが当面の予定になっていますが、開成の教育は、始業式から始まります。少なくとも、この1か月は対面授業ができませんが、開成の各教科の先生方が様々な工夫をして、インターネットを活用し、自宅で学習するための教材を準備しています。新しい試みも少なくないと思いますので、戸惑うこともあるかと思いますが、自分で考えながら、時には遠慮なく先生方にメールで質問しながら、勉学に努めてください。5月中旬には、中間試験が予定されており、自宅での学習成果が評価されます。

私は、東京大学工学部修士課程を修了後、5年間ほど原子力関係で仕事をした後、35年間名古屋大学で化学分野の研究・教育を担いましたが、縁があって30年近く留学生交流プログラムの運営や国際交流に長年携わってきました。20か国の70以上に及ぶ大学を訪問し、多くの海外有力大学との学術交流協定(姉妹校協定)を締結し、

相互の学生交流を推進しました。留学生が気持ちよく勉学に励んでもらうためには、留学生の様々な文化や宗教・国の背景の違いを理解しながら、日本の制度や考え方も丁寧に説明することが重要です。そして、相手の立場に立って考えてみる、ということが何よりも必要です。日本の大学生たちも、交換留学等によって海外大学に1年近く留学すると、自分たちが海外での留学生としての経験をする中で、積極性を増し、コミュニケーション能力の高い逞しい大人になって戻ってきます。

日本社会も、多様な背景をもった方たちが急速に増えてきており、否応なくグローバル化の時代を迎えています。開成の生徒や卒業生の皆さんが、これらに臆することなく、外国語学能力を高め、多様性を十分に理解し、マイノリティー(社会的少数者)や弱い立場の方々を含め、相手の気持ちを思いやることに努めながら、日本や世界で様々な分野でリーダーシップを発揮して活躍していただくことを期待しています。

開成の教育は、質実剛健、自由の精神の下で、教員の方々が不断に接触して、生徒の皆さんが自主的、自律的に行動でき、個性を発揮するように努力しています。この1か月は不自由をかけるかと思いますが、教員の先生方が様々な新しい教育方法に取り組んでいますので、生徒の皆さんは新しい学びの方法を新たに見つけることができるかもしれませんし、生徒の皆さんからも新しい教育方法を提案していただくことができるかもしれません。是非、この1か月を、楽しみながら、実りある期間として取り組んでいただきたいと思います。